

線形代数 6.1.01

1次写像の定義と例・基本性質

K. Yoshitomi

大阪府立大学

2017

この動画は培風館「理工系新課程線形代数基礎から応用まで」[改訂版]に準拠しています。
スライドは <http://www.las.osakafu-u.ac.jp/~yositomi/slide/LA2-2017/> にあります。

行列の定める写像の復習と1次写像の定義

$A: m \times n$ 行列に対し, $T_A: \mathbb{K}^n \rightarrow \mathbb{K}^m, \mathbf{x} \mapsto A\mathbf{x} : A$ の定める写像

性質: $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{K}^n, c \in \mathbb{K}$ のとき,

$$T_A(\mathbf{x} + \mathbf{y}) = A(\mathbf{x} + \mathbf{y}) = A\mathbf{x} + A\mathbf{y} = T_A(\mathbf{x}) + T_A(\mathbf{y})$$

$$T_A(c\mathbf{x}) = A(c\mathbf{x}) = c(A\mathbf{x}) = cT_A(\mathbf{x})$$

i.e. $T_A(\mathbf{x} + \mathbf{y}) = T_A(\mathbf{x}) + T_A(\mathbf{y}), T_A(c\mathbf{x}) = cT_A(\mathbf{x})$

- ・ベクトル空間 $V, W, f: V \rightarrow W$ が線形性を持つ
- \Leftrightarrow 任意の $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in V, c \in \mathbb{K}$ に対し,

$$f(\mathbf{x} + \mathbf{y}) = f(\mathbf{x}) + f(\mathbf{y}), f(c\mathbf{x}) = cf(\mathbf{x})$$

が成り立つこと.

- ・線形性を持つ写像 = 1次(線形・線型)写像(Linear Map)

1次写像の例

例 $T_A : \mathbb{K}^n \rightarrow \mathbb{K}^m$ は1次写像

例 $D = \frac{d}{dx} : P_4(\mathbb{R}) \rightarrow P_3(\mathbb{R}), p(x) \mapsto p'(x)$ (微分) i.e. $D(p(x)) = p'(x)$

Q. $g(x)$ を与えられた多項式(定数でもよい)とする. 以下は1次写像か?

- ・ 多項式をかける: $f(p(x)) = g(x)p(x), p(x) \in P(\mathbb{R})$ (以下略)
- ・ 多項式をたす: $f(p(x)) = p(x) + g(x)$
- ・ 積分する: $f(p(x)) = \int_0^x p(t)dt$
- ・ g をかけて積分する: $f(p(x)) = \int_0^x g(t)p(t)dt$
- ・ 多項式に代入する: $f(p(x)) = p(g(x))$

注 線型写像の f と多項式 $f(x)$ とを混乱することがある. 線型写像は大文字で表すなど, 決めておこう. 以下は多項式では大文字 F や D を使うことにする.

線形写像の基本性質

★線型写像 $f: V \rightarrow W$ は $\mathbf{0}$ を $\mathbf{0}$ にうつす: $f(0_V) = 0_W$

★ $f: V \rightarrow W$ が線形写像である

⇔ 任意の $c_1, c_2 \in \mathbb{K}$ と $v_1, v_2 \in V$ に対して

$$f(c_1v_1 + c_2v_2) = c_1f(v_1) + c_2f(v_2)$$

⇔ 任意の $m \in \mathbb{N}, c_1, \dots, c_m \in \mathbb{K}, v_1, \dots, v_m \in V$ に対し

$$f(c_1v_1 + \dots + c_mv_m) = c_1f(v_1) + \dots + c_mv_m$$

注 上の言い換えは「1次結合を'保つ」と表現できる.

Q. 上の同値性を証明せよ.

線形写像の基本性質

★線型写像 $f: V \rightarrow W$ は $\mathbf{0}$ を $\mathbf{0}$ にうつす: $f(0_V) = 0_W$

★ $f: V \rightarrow W$ が線形写像であるための必要十分条件

\iff 任意の $c_1, c_2 \in \mathbb{K}$ と $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \in V$ に対して

$$f(c_1\mathbf{v}_1 + c_2\mathbf{v}_2) = c_1f(\mathbf{v}_1) + c_2f(\mathbf{v}_2)$$

\iff 任意の $m \in \mathbb{N}, c_1, \dots, c_m \in \mathbb{K}, \mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_m \in V$ に対し

$$f(c_1\mathbf{v}_1 + \dots + c_m\mathbf{v}_m) = c_1f(\mathbf{v}_1) + \dots + c_mf(\mathbf{v}_m)$$

注 上の言い換えは「1次結合を'保つ」と表現できる.

Q. 上の同値性を証明せよ.

線型写像の例と線形でない例(数ベクトル)

$f: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$ は2次行列 A で $f = T_A$ と書ければ線形. 以下は線形か?

$$(1) \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \mapsto \begin{pmatrix} x^2 \\ x+y \end{pmatrix}$$

$$(2) \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \mapsto \begin{pmatrix} x+y \\ xy \end{pmatrix}$$

$$(3) \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \mapsto \begin{pmatrix} x+y+1 \\ 2x-3y+2 \end{pmatrix}$$

(*) $f: \mathbb{K}^n \rightarrow \mathbb{K}^m$ 線形写像 $\Leftrightarrow f = T_A$ ($\exists A: m \times n$ 行列)

\Rightarrow 数ベクトル空間の間の線型写像は行列によって定まるものに限る

\Rightarrow 線形かどうかの判定は容易

Q. (*)の同値性を示せ.

線型写像の例と線形でない例(多項式)

$g(x)$: m 次の多項式とする.

★ $F: P_n(\mathbb{R}) \rightarrow P_{nm}(\mathbb{R})$, $F(p(x)) = p(g(x))$ (代入)

例 $p(x) \mapsto p(c)$, $p(x) \mapsto p(x^2)$, $p(x) \mapsto p(2x+1)$

★ $F: P_n(\mathbb{R}) \rightarrow P_{n+m}(\mathbb{R})$, $F(p(x)) = p(x)g(x)$ ($g(x)$ をかける)

例 $p(x) \mapsto x^2p(x)$, $p(x) \mapsto (2x+1)p(x)$

注 上の例で確かに0が0に写っていることに注意.

線形写像にならない例

★ $f(p(x)) = p(x) + g(x)$ (足し算)

★ $f(p(x)) = p(x)^m$, $m > 1$ (べき乗)

Q. 上の例が線形写像にならないことを示せ

次回「1次写像の合成と逆写像」